（別紙4）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4076200205		
法人名	社会福祉法人　正松会		
事業所名	グループホーム　椿の里		
所在地	〒820-0084　福岡県飯塚市椿６２３番地２０　　TEL 0948-28-3839		
自己評価作成日	平成25年03月15日	評価結果確定日	平成25年04月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴２丁目５－２７　　TEL　093-582-0294
訪問調査日	平成　２５年０４月０４日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設１０年であり、併設のデイサービス、特養、ケアプランセンターと連携がとれて、落ち着きのある施設です。住み慣れた地域の中でその人らしく暮らしていただくように職員はいつも心掛けて介護にあたっています。職員は料理の得意者が多く、利用者がおいしく食べていただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「椿の里」は、飯塚市郊外の自然に囲まれた高台に、特養、ディサービス併設で、1ユニットのグループホームである。隣接する市立飯塚病院とは、医療連携が確立し、法人の提携医と合せ、利用者の健康管理は２４時間安心して任せられる体制が整っている。複合型福祉施設の強みを活かした地域との取組みは、法人全体の夏祭りに家族や、地域住民が沢山参加し、地域の盆踊り、獅子舞、幼稚園児との七夕飾り等、活発な交流が始まっている。管理者と職員は、利用者が住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが、続けられるようにそっと寄り添い、利用者の目線に立って優しく介護する姿は、家族に「ここを選んで良かった」という信頼に結びついている。また、調理自慢の職員が作る美味しい料理を沢山食べ、利用者の健康増進に繋げ、１日一日を大切に、充実した「椿の里」である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27）	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の２／３くらいの 3. 利用者の１／３くらいの 4. ほとんど掴んでいない		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	1. ほぼ全ての家族と ○ 2. 家族の２／３くらいと 3. 家族の１／３くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40）	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）	1. ほぼ毎日のように ○ 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない		68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の２／３くらいが 3. 職員の１／３くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の２／３くらいが 3. 家族等の１／３くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の２／３くらいが 3. 利用者の１／３くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altｷｰ)＋(Enterｷｰ)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員利用者が地域の中の一人として暮らせるように考えて、実践につなげれるようにしている。	ホーム開設時に職員全員で考え作成した独自の理念「住み慣れたところでその人らしく穏やかに暮らせるように支援します」を掲げ、会議等の機会に振り返り確認し、常に意識しながら、利用者一人ひとりのペースで暮らせるよう、職員が寄り添う介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方に参加してもらっている。法人全体で地域と活発な交流が始まっている。	デイサービス、特養が併設されているため、法人全体としての地域との交流は活発に行なわれている。地域の盆踊りに利用者と職員が参加したり、法人全体の夏祭りでは、バザーで唐揚げを担当し、家族や地域の方が大勢参加する等活発な交流が始まっている。幼稚園児との七夕作りは恒例となり、利用者の大きな楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けてグループホームから積極的に交流することは少ないと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用者の介護状況を報告している。夏の会議の後、家族からの意見をくみ取り、各居室に温湿計を設置した。	会議は、利用者代表、家族代表、民生委員、福祉委員、行政職員参加の下、2ヶ月毎に定期開催している。ホーム側からは、行事報告や予定、利用者の介護状況が詳細に報告されている。「行事について何か良い案はありませんか」という管理者の呼びかけに、沢山の情報や意見が出る等、サービス向上に繋がる充実した会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の派遣の介護相談員に毎月来てもらっている。市の担当者と協力し、市内の同業者と地域密着型サービス協議会設立した。	困難事例の相談、状況報告を兼ねて、行政担当窓口と連絡を密に取りながら連携を図っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を見てもらい、理解を得ている。市と協力して地域密着型サービス協議会を設立する等、開設10年を目を迎え、更なる地域貢献を目指している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会、法人内の身体拘束0委員会に参加し、理解は出来ている。玄関は鍵をかけていない。身体拘束らしき声掛けをした時は職員同士注意し合っている。	身体拘束をしていないか、大きな声を出していないか、強い言葉を言っていないかを日々振り返り、「身体拘束、不適切な接遇と思われる事」についての気付きを紙に書き、一日一枚提出して帰る事を実践し、職員全員の意識付けを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修、法人内研修に参加している。なにが虐待にあたるのか、職員同士が注意している。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会、勉強会に参加している。成年後見制度については今までに利用された方がおられない。	現在、該当者はいないが、資料やパンフレットを用意し、契約時に、利用者や家族に説明を行い、理解を頂いている。また、職員は、研修会に参加し、制度の仕組みについて理解を得、利用者や家族が制度を必要とする時には、詳しく説明し、関係機関に取り次ぐ支援体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時十分に説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者満足度アンケート、懇親会、運営推進会議、日々の利用者、家族との会話の中から意見、要望をくみ取るようにしている。	家族面会や、懇親会、運営推進会議、ホーム便り配布等、家族と関わる機会を増やし、信頼関係を築き、何でも話し合える関係の中で、利用者や家族の意見や要望を聴き出している。懇親会では家族だけで話し合う時間を確保する等、意見、要望が出しやすいよう配慮している。また、利用者満足度アンケートを実施し、その結果をホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議は全職員参加して行っている。法人関係者も参加している。	職員全員が参加する職員会議を毎月定期的に開催し、職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、意見や要望、提案等が活発に出されている。「会議参加に伴う時間外手当について」や「新たな非常口設置」について等、出された意見を出来るだけホーム運営に反映させる努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取ることを支援し、それに応じた雇用形態や給与等に反映し、やりがいや向上心につながるよう努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集については、ハローワーク等を通じ性別、年齢等の制限はしていない。緊急で長期休暇時は前職員を確保し、それ以外は有休もとりやすいよう人数を配置している。	職員の採用は、人柄や、やる気を優先し、年齢や性別の制限はしていない。採用後は、職員の経験や、習熟度に合わせ、内外の研修に参加してもらい、介護技術の向上を目指している。また、希望休や勤務体制については柔軟に対応し、職員が生き生きと働きやすい職場環境作りに取り組み、職員の離職はほとんどない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員採用時、職員会議の中で理事長が職員心得として人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	新人研修、年度末に行われる法人全体の職員会議の中で、利用者の人権を尊重し、安心した暮らしを守る取り組みについて学び、確認している。また、日々の暮らしの中で、利用者の尊厳を守りながら、ホーム理念に沿って「その人らしく」を大切にした介護サービスの実践を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ会議、代表者会議、その他各種合同委員会を通じて職員一人ひとりの力量等を把握し、苑内研修参加や、外部研修、ブロック研修等を積極的に受ける機会を与えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの人事交流や、管理者が地域密着型施設協議会の委員になることを支援し、同業者とのつながりを通じて、質の向上を目指す取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前家族、本人の気持ちを確かめ、安心して入所して頂いている。本人、家族が安心して入所できるまで入所時期を遅らせたことも多い。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャー、利用先のデイサービス等より情報を得ている。家族の立場になって考え,又、利用者と家族がなごやかな関係が築けるよう考えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の協力が得られそうな利用者には、入所直後はできるだけ面会を多くしてもらい、自宅に連れて帰ってもらうようにお願いしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物に一緒に行き,手伝って貰ったり、洗濯物干しをしてくださる。「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えてる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族で外食、買い物ができるように、職員が介助援助できるように付き添っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	忙しくてなかなか面会に来れない家族の家の近くの畑まで利用者をお連れし、喜んでもらったり、入所前利用していたデイサービスにお連れしたり、馴染みの美容室を利用してもらっている。	法人内のデイサービスに遊びに行ったり、馴染みの場所へ買い物に行く等、利用者が昔から慣れ親しんだ場所や人との関係継続の支援に取り組んでいる。利用者の姪御さんの美容室に行くと利用者の表情がパッと明るくなるため、定期的に同行支援を行っている。また、入居後の利用者同士の仲の良い関係作りや職員との信頼関係等、新たな馴染みの関係を大切にしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのソファーの座る位置は利用者の意見を聞いたり、様子を伺いながら、　座ってもらっている。仲のいい方同士座り、会話が弾んでいることがある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に移られた元利用者に声掛けに行ったり、ご家族の方とも気軽に話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接聞くようにしているができない時は、家族に訊ねたり、ケア会議で職員が利用者の思いを推測、検討し、本人の希望に添えるよう考えている。	職員は利用者に寄り添いながら、「いつもと違う」事に気づけるよう常に気を配り、会話や表情、仕草から、利用者の思いや意向を汲み取っている。また、意向表出の困難な利用者については、入居前に利用していたデイサービスの職員に情報をもらったり、過去の介護記録や、永年勤続のベテラン職員の情報を職員全員で共有し、利用者の意向に応えるケアの実践に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、利用のデイサービスより資料をもらったり、入所時家族、本人より聞き取りしている。最近入所された方本人に自宅を案内してしてもらい、入所前の環境を見せてもらった。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を介護日誌、個人記録に毎日記入している。些細なことも申し送りするようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者の意見、普段の表情、しぐさ、家族の希望などを基に全職員でケアプラン会議を行い、介護計画を作成している。	家族面会時、又は電話にて、「来月プランを作り変えるから何か要望ありませんか」と声掛けして家族の希望を聴き取り、利用者の意見、職員の気付きを挙げて、ケアプラン会議で全職員が話し合い、介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や関係者と話し合い、その都度介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、介護日誌に毎日いつもと同じこと、ちょっと変わったこと、なんでも記録したり、申し送りしたりし、情報を共有しながら、実践やプランに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室には家族とともに行く方、職員が車いすでお連れする方がおられ、訪問美容を利用される方もおられる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	姪の美容室にお連れしたり、行きなれたスーパーに買い物にお連れしたり、蛍を見に実家近くにお連れして喜ばれている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前利用されていた医院に継続してかかってもらい、容態が変わり、かかりつけ医が変わられた方もおられた。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を優先して決めている。併設特養に毎週木曜日に往診する嘱託医を受診したり、緊急の場合に特養の看護師が駆けつける等、医療受診に柔軟に対応出来る体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人全体の朝礼の時、特変ある方の報告をしており、特養看護師がアドバイスをしてくれる。また急な時訪問を依頼することがある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、椿の里の事を忘れないように頻回に面会に行くようにしている。そのとき容態伺いもしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時説明している。入所が長くなった方、重度化が進んでいる方の家族とはその時点で看取りについて話し合っている。	敷地内に特養、隣接地に飯塚市立病院があり、利用者の希望を聴きながら家族の思いを確認し、利用者にとって最良の方法で終末期が迎えられるよう、職員全員で話し合い、ターミナルケアの指針を作成し、利用者の重度化、終末期に向けた方針を共有している。昨年度は初めての看取りを実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内勉強会、研修会に参加し忘れないようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。「夏祭り」などで来られた地域の方には「何かあったら、来てください」とお願いしている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、窓からの非難を想定して居室の窓の外に足場となる台を用意する等、具体的な方法を検討し準備している。また、スプリンクラーを設置し、非常通報装置の訓練も実施している。「非常災害時に関する覚書」を飯塚市椿自治会と交わし、災害時における地域との協力体制を築いている。	非常災害時に、電気、水道、ガスの使用が出来ない場合を想定し、非常用食料品、飲料水の備蓄と、利用者の医療、薬の情報等を非常用持ち出し袋に準備される事を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的(研修後が多い)に振り返り、反省したり、確認している。	利用者と職員は、家族のような関係でありながら、一人ひとりへの言葉掛けに心を配り、尊厳やプライドに配慮して、「温かい思いやりで充実した日々を」というグループホームのモットーに向けて日々取り組んでいる。また、個人情報の記録は目隠しされた棚に保管し、職員の守秘義務と合わせ、利用者が安心して暮らせる環境整備に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを行動、表情、言葉などからくみ取ったり、選択肢を2～3に少なくして選びやすいようにして聞いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に毎日の行動は決めてなく、その日の雰囲気で散歩、歌、会話など利用者にきいて楽しんでいる。なかなか利用者の方からは具体的なしたいことが出てこないのが残念です。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に出来るだけ洋服は持って来て貰っているが、本人、家族、職員で洋服を買いに行ったこともある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、　茶わん拭き、テーブル拭きなど手伝って貰っている。	食事を大切にする管理者、職員は、手作りの食事にこだわり、利用者の好みを聴きながら、利用者の好きな食材を献立に取り入れている。利用者と職員が同じテーブルで楽しそうに会話しながら一緒に食事する様子は微笑ましいものがある。また、節分には恵方巻きを作ったり、「ぜんざいが食べたい」という利用者の希望ですぐにぜんざいを作り提供する等、食べる楽しみを大切にした支援を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量を記入している。食後はお茶が飲めないといわれるので、食前にもお茶を飲んでもらっている。個人に合わせて、刻み食、粥食、とろみ食など用意している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合ったマウスケアを行っている。声掛けでできる方、ガーゼで拭く方、ブラッシング介助の必要な方がおられる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ、紙パンツ、オムツ、昼、夜、使い分けている。訴え時誘導する方、時間をみて誘導する方もいる。	出来るだけトイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや習慣を把握し、さりげない声かけや早めの誘導で排泄の自立に向けた、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。「座ったら出る」事を大切に、立位が難しくなっている利用者にも2人介助を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、トイレに座ってもらって排便を促したり、腹部マッサージをしたりしている。毎日牛乳を飲んでもらっているが牛乳を飲むとお腹が緩む方、嫌いな方にはお茶を飲んでもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日できるように準備し、声掛けして、希望者には入浴してもらっている。体力がない方の入浴は週3回と少なくしている。	入浴日は日曜日も含めて利用者の希望を優先し、毎日でも入浴できるように準備している。現在、毎日入浴利用者は5名いて、入浴を拒否する利用者も週3回は入浴され、無理強いをしない楽しい入浴が出来るよう支援している。また、築10年が経過しているが、浴室は清掃や整理整頓が行き届き、気持ちの良い入浴が出来る環境が整っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングの方が良く寝られる方はリビングで昼寝をしていただき、本人の希望、体力に合わせ、自室で昼寝される方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わるたび、薬の情報提供書を職員は読んでいる。服薬までに3人の職員で薬のチェックしており、職員は薬が変わったら、すぐ分かります。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事をしたり、日々の生活支援（散歩、歌、）誕生日には家族での外食をはたらきかけたり、外出が好きな方には職員が外出時も声掛けして外出してもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1か月に1～2回ぐらいは出かけられるように、行事を考えている。その時、家族の参加を促している。外出の好きな方には職員の買い物の時、一緒に出掛けている。	日常的な散歩や買い物、ドライブ、雛の祭り、養源寺の火渡り行事、西光寺の紅葉見物等、外出出来る間に色々な所に積極的に出かけている。管理者と職員の頑張りで、利用者の笑顔に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	神社参りのお賽銭はお参りの時はあげられますが、外出時、買い物を勧めますが買われることはないようです。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんから電話をかけたいといわらる事は最近ありませんが家族、知人から電話があった時はできるだけ本人さんと話してもらっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏には、居室入口に暖簾をかけ、戸を開け、自然の風が入るようにしたり、昨年は全居室に温湿計を設置した。季節を感じてもらえるように、散歩で花を摘んで飾ったりしている。	木造平屋建てで、木をふんだんに使った建物は、利用者の写真や季節にちなんだ飾りつけで、温かい家庭的な雰囲気となり、利用者が落ち着いて穏やかに過ごせる居住空間となっている。また、利用者が大半を過ごす広いリビングルームには、ゆったりとしたソファーが置かれ、和室の窓から見える中庭の見事な桜の花を眺めながら、利用者が思い思いの場所で寛ぎ、一日を楽しく和やかに過ごす事が出来る共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファー3台、食卓、掘りごたつがあり、各々その時々で好きな場所にかけてもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、使い慣れた家具を持って来ていただくようお願いしている。	居室は、家族の協力を得て、生花が飾られ、利用者が大切にしている物や家族の記念写真、慣れ親しんだ家具等を持ち込んでもらい、自宅のような感覚で、居心地良く過ごせる居室となっている。また、各居室にトイレが完備されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりでトイレに行けるよう、本人のトイレまでの移動方法に合わせ、ベッドの位置を工夫したり、便所と分かるよう、貼り紙をする等配慮している。		